



梅雨が明けると、夏はもうすぐそこです。夏バテ予防には、規則正しい食生活と十分な睡眠が大事です。

## 明日につなごう！

7月！いよいよ夏本番。我が社は、今期あと2ヶ月、熱き戦いをしていきたいものだ。

熱き戦といえど『W杯アフリカ大会』、一次リーグを2勝1敗で通過、8強に挑む事となった。

日頃、サッカーにさほど興味を示さない私でもすばらしい活躍にちょっと興奮気味である。

私のサッカー経験は、中学、高校時代の体育の時間に砂塵吹き荒れる酷風の中でプレーした以外にない。だから、なんでこんなものが面白いのかと嘆いていたことしか記憶にない私が、なぜ熱くなるのか。思うに愛国心かと思っている。



特に最上の選手がいるわけでもない、日本を代表して戦っているチームを応援しているのだ。頑張っただけだ。それにつけても、マスコミのいい加減さはどうだ。W杯に入る前の親善試合では、酷評だったではないか。曰く、『岡田監督はダメだ、何を考えているのか、今からでも監督をかえろ』、『選手は戦う気持ちがない、やる気がない、これでは勝てるわけがない』等々散々な評価だった。それがどうだ、手のひらを返したように日本人の活躍にやんやの喝采だ。試合に勝ってインタビューを受ける岡田監督の顔が誇らしく印象的だった。この好結果はいったいどうして手に入れたのか、とても興味がある。マスコミやファンの酷評に対する反骨心からもあるだろうが、監督と選手がバラバラだったチームが結束力を高めたきっかけがあったはずだ。それを知りたい。また、選手が言ったなかでとても印象に残った言葉がある。『デンマークと戦い、3対1で勝った試合が明日につながる勝ち方だった。』との言葉だ。野球でもよく“明日につながる負け方”という表現を見聞きする。

勝って負けても『明日につながる』何かを得ることはとても大切な意識である。

商売も同じ事で“目標があってこそ”と思う。

ここで、マスコミのことだが、とにかく批判や揚げ足を取ることに終始しているように思えてならない。政治・経済・経営・スポーツ・芸能でも、何でもかんでもだ。

“人の不幸は蜜の味”だから受けて側に受けるそれを各社が競い合う。

受けて側は、ねつ造であっても信じ込んでしまう。まことに恐ろしい事だ。

われわれは、発信された情報を常に正しく判断できる用意をしておかなくてはならないと強く思う。商売においては、三直三現主義が大事と思う。

6月に静岡大学農学部で開講された静岡農業ビジネス起業人育成講座で、『農業ビジネス総合演習～私の経営＝経営管理とISO～』と題し、経営総合の中村先生のご縁で恥ずかしながら講義を担当させて頂いた。これから農業に取り組んでいきたい人、いま農業を営んでいる人、企業から派遣された人などが受講生だ。

プロジェクターを使い、農家の生まれで土に育った私の自己紹介からはじめ、経営理念、経営計画、5S活動、ISOの話など一通り紹介した。

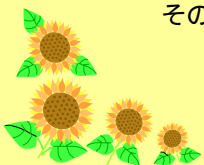
特に、どんな業種であっても『売り上げなくして事業なし』を強調した。

締めくくり、いまを生きている、働ける場所がある、苦言を言ってくれる人がいる、

褒めてくれる人がいる・・・所詮ひとりでは生きていけないのだから感謝、感謝で日々を生きることが私の心情だとお伝えした。

その原点は今亡き実母の『他人(ひと)のためにやらにゃいかんよ』の言葉であることを添えて。

日々、感動・感謝をもって極力自分で情報を的確に捉え明日につながる経営をしていきたいものである。



赤堀 肇記